

柱1 「京都」で学ぶ魅力の向上

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(1) 大学間連携による学びの充実</p>	<p>【単位互換制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修者数は減少傾向 H17(ピーク時)10,200人→H29 2,549人 「質への転換」を目標に、「京都世界遺産 PBL 科目」の開設(H27)、提供科目の精査などにより、提供科目の魅力の向上を図っている。 <p>※京都世界遺産 PBL 科目 京都の世界遺産をフィールドに展開する、課題解決型の能動学習科目(清水寺×立命館、二条城×同志社大学) (H29実績) 6大学8科目開講(受講者数:113名)</p>	<p>【単位互換制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単位互換の魅力向上に向けた「質への転換」の更なる推進 ○ 学生へのアピール強化 ○ 教職などの資格課程共同化 <ul style="list-style-type: none"> 単位互換という仕組みが使えるメリットを、どう学生にアピールするかが課題。 世界遺産 PBL などぜひ推進して欲しいテーマであり、質も良い。 単位互換科目はフィールドワークで他大学と交流できる形のほうが魅力的。 企業との連携でつくる科目、日本人と留学生がともに学ぶ科目などをコンソが担うことは、自前では用意しにくい中小規模大学にとって必要な役割。 教職などの資格課程については、単位互換等を活用した共同化についても検討してはどうか。 教職課程等の共同化は小規模大学にとってありがたい。コンソが軸となり、京都における大学の知性・学生の一体化を進めることが求められている。 世界の趨勢は講座のオンライン化であり、単位互換手法の見直しや資格取得にも活用できる。一部の科目に絞って実験的な研究会をやってもよい。 各大学に対し、教育を行う上で基本とすべき3つのポリシーの策定が求められている中、カリキュラムの見直しや1年間に履修登録できる単位の上限の設定といった単位認定の厳格化により、学内で履修する科目の増加などから、利用する機会が減ってきている。 	<p>【単位互換制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 単位互換科目の魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> 世界遺産 PBL に続く、動物園、鉄道博物館等、学生の関心が高い京都を代表する魅力的なフィールドにおける単位互換科目や教職日曜講座等の開設 ② グローバル科目の開設の検討 <ul style="list-style-type: none"> 学生の異文化リテラシー醸成を促す日本人と留学生の交流科目 英語等日本語以外の講義科目の単位互換化の促進による大学の枠を越えて留学生の学び合いができる環境の促進 ③ インカレ型オンライン講座の研究 ④ 大学・学生向け周知の充実 ⑤ その他大学間連携による学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> 複数大学間での教育プログラムや科目の共同化の研究 	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスプラザ京都の運営 単位互換制度
	<p>【障害のある学生の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の障害学生支援業務に携わる担当者の交流を目的とした「関西障がい学生支援担当者懇談会」の事務局として、年2回開催(加盟校は各回15~19大学が参加) 教職員・学生を対象としたノートテイク養成講座・パソコンテイク養成講座を開催 	<p>【障害のある学生の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各大学の持つノウハウ・情報の蓄積と共有 <ul style="list-style-type: none"> 専門部署を置くことが難しい中小規模の大学をはじめとして、変化していく情勢を踏まえた情報共有や研修は、コンソだからこそできる事業。今後、障害の程度を踏まえた支援事例のデータベース化など、各大学が適切に支援の判断ができるための情報の提供が望まれる。 障害のある学生の支援については、個別の大学だけでは難しいところがあり、重点的に知恵の交換をしていくことが必要である。 	<p>【障害のある学生の支援】 SDGs</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 重度訪問介護利用者の大学修学支援事業の実施検討 ② ニーズを踏まえた研究会・勉強会の開催 ③ 高校教員(特別支援学校を含む)を対象とした障害のある高校生の進学に関する懇談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者移動支援事業 みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣 ノートテイク養成講座・パソコンテイク養成講座 関西障がい学生支援担当者懇談会(KSSK)
<p>(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実</p>	<p>【ブラックバイト対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「京都市わかもの就職支援センター」にブラックバイト相談窓口を設置し、働くルールを学ぶセミナーや相談会を大学等で実施しているほか、学生への周知・啓発などの取組を進めている。(H29実績) セミナーや相談会を計3回開催(計145名参加)うち、大学での開催は2回(芸大・華頂) 	<p>【学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発】</p> <p>【学生が犯罪・交通被害・消費者トラブルに遭わない環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生が安心して学ぶことができるよう事前の啓発活動及び事後の相談、窓口の周知 <ul style="list-style-type: none"> 新入生への危険ドラッグや飲酒等に対する注意喚起は大学で行っているが、文字ではなかなか読んでくれないという実態もあり、どのように定着させるかは課題。 SNS やネット上の情報を安易に受容するのではなく、自らが正しい情報をキャッチし判断する必要がある。そのためにも働く上で基礎的な「労働法」や「求人票・青少年雇用情報シート等」の見方について、学生だけに限らず大学職員も正しく理解する必要がある。 学生は立場も弱く、相談できない可能性もあるので、京都市には雇用主への働きかけをもってブラックバイトの根絶に取り組んでいただきたい。 	<p>【学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発】</p> <p>【学生が犯罪・交通被害・消費者トラブルに遭わない環境づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 京都市わかもの就職支援センターと連携したブラックバイト相談窓口の周知 ② 学生向けアプリによる学生の困り事(ゴミ出しルール、勧誘、特殊詐欺、自転車保険等)相談窓口の紹介 ③ 入学時のオリエンテーション(主に大学1年生を対象)を活用した各種啓発の実施 <ul style="list-style-type: none"> 客引き・スカウト対策 「18歳成人」民法改正を見据えた消費者契約トラブル 	<ul style="list-style-type: none"> 「京都市わかもの就職支援センター」によるブラックバイト根絶に向けた「働くルールを知るセミナー」 自転車のルール・マナー向上に向けた啓発 市内大規模事業所における帰宅困難者対策の推進
	<p>【ブラックバイト対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「京都市わかもの就職支援センター」にブラックバイト相談窓口を設置し、働くルールを学ぶセミナーや相談会を大学等で実施しているほか、学生への周知・啓発などの取組を進めている。(H29実績) セミナーや相談会を計3回開催(計145名参加)うち、大学での開催は2回(芸大・華頂) 	<p>【学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発】</p> <p>【学生が犯罪・交通被害・消費者トラブルに遭わない環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生が安心して学ぶことができるよう事前の啓発活動及び事後の相談、窓口の周知 <ul style="list-style-type: none"> 新入生への危険ドラッグや飲酒等に対する注意喚起は大学で行っているが、文字ではなかなか読んでくれないという実態もあり、どのように定着させるかは課題。 SNS やネット上の情報を安易に受容するのではなく、自らが正しい情報をキャッチし判断する必要がある。そのためにも働く上で基礎的な「労働法」や「求人票・青少年雇用情報シート等」の見方について、学生だけに限らず大学職員も正しく理解する必要がある。 学生は立場も弱く、相談できない可能性もあるので、京都市には雇用主への働きかけをもってブラックバイトの根絶に取り組んでいただきたい。 	<p>【学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発】</p> <p>【学生が犯罪・交通被害・消費者トラブルに遭わない環境づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 京都市わかもの就職支援センターと連携したブラックバイト相談窓口の周知 ② 学生向けアプリによる学生の困り事(ゴミ出しルール、勧誘、特殊詐欺、自転車保険等)相談窓口の紹介 ③ 入学時のオリエンテーション(主に大学1年生を対象)を活用した各種啓発の実施 <ul style="list-style-type: none"> 客引き・スカウト対策 「18歳成人」民法改正を見据えた消費者契約トラブル 	<ul style="list-style-type: none"> 「京都市わかもの就職支援センター」によるブラックバイト根絶に向けた「働くルールを知るセミナー」 自転車のルール・マナー向上に向けた啓発 市内大規模事業所における帰宅困難者対策の推進

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
③ 大学経営・運営の支援		<p>【小規模大学をはじめとする特色化・機能強化に取り組む大学への支援】</p> <p>○ 各大学のノウハウのシェアによる支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外に向けてノウハウの蓄積を明示しながら、それをオープンにし、ノウハウを普及、シェアしていくというシステム作りが一つの解決法 ・ 各大学が教養や語学の科目を共通化・外注する動きが全国的に出てきているが、インターカレッジの機能を持つ大学コンソーシアム京都がコンサルテーションも含めて連携できるのではないか。 	<p>【小規模大学をはじめとする特色化・機能強化に取り組む大学への支援】<u>レジリエンス</u>、<u>SDGs</u></p> <p>① 各大学の学びの特色(個性)化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学間連携の深化に向けた研究の推進(共同化が可能な事項の研究、ノウハウ共有の仕組み構築) <p>② 大学コンソーシアム京都の情報収集発信機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財団や加盟校の運営に関わる国等の動向についての調査 ・ 高等教育の動向調査 ・ 加盟校のニーズ把握を目的としたヒアリングやアンケートの実施 <p>③ 高等教育に係る研究者や実務者等を定期的に招聘しての研究会の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学への寄付の増進
	<p>【FD, SD】</p> <p>H29 は以下の取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都FD執行部塾(参加者数:54名) ・ 新任教員FD合同研修(計2回,参加者数:延べ22名) ・ 京都 FDer 塾×大学教育パワーアップセミナー(参加者数88名) ・ 第23回FDフォーラム(参加者数:651名) ・ 大学職員共同研修(計7回,参加者数:延べ118名) ・ 第14回SDフォーラム(参加者数:154名) ・ SDゼミナール(計8回,受講生数:18名) 	<p>【FD, SD事業】</p> <p>○ コンソによる効果的なFD, SD事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FDは学内でも取り組んでいるが自大学の規模では限界がある。支援をお願いしたい。 ・ SD義務化の中、自前で研修制度を整えるのが難しいので、単発系、連続系をバランスよく組み合わせる展開してほしい。 	<p>【FD, SD事業】</p> <p>① 階層(マクロ・ミドル・マイクロ)別の研修プログラム(FD事業), 階層(ミドル・ベテラン)別の研修や分野別の研修プログラム(SD事業)の検討</p> <p>② 教職協働を意識したプログラムの新設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都FD執行部塾 ・ 新任教員FD合同研修 ・ 京都 FDer 塾×大学教育パワーアップセミナー ・ 第23回FDフォーラム ・ 大学職員共同研修 ・ 第14回SDフォーラム ・ SDゼミナール
④ 大学施設整備の支援・誘導	<p>【大学施設整備の支援・誘導】</p> <p>「大学施設整備支援窓口」において、「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」に基づき、大学の施設整備の計画に関して技術的な助言や各種手続が円滑に進むように関係者と調整するなどの支援を実施。</p>	<p>【大学施設整備の支援・誘導】</p> <p>○ 地域の拠点である大学施設整備支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市HPでのガイドプランの公表等、より一層の情報公開を期待。 ・ 具体的にどのような支援を行っているのか周知・告知のあり方に工夫が求められる。 ・ 都市型の大学ではキャンパス面積にも限界があるため、校舎の高層化など建築基準の緩和をお願いしたい。 ・ 学生の教育はもちろんのこと、学術や文化、交流、創造の拠点等として重要な大学が、まち全体の魅力・活力の維持・向上につながる拠点となるよう、支援を行っていただきたい。 	<p>【大学施設整備の支援・誘導】<u>レジリエンス</u>、<u>SDGs</u></p> <p>① 京都のまちづくりにおいて、「大学のまち京都・学生のまち京都」として、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備を支援(都市計画マスタープラン、持続可能な都市構築プラン(仮称))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学施設整備支援事業

柱2 大学・学生の国際化の促進

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(1) 留学生の誘致促進</p>	<p>【京都市内の留学生数】 8,317人(平成29年5月1日時点) ※平成16年(4,125人)以降、13年連続で増加</p> <p>【京(みやこ)グローバル大学促進事業】 認定10大学(※)において、協定校との連携強化、新規協定校の開拓、留学生受入プログラムの開発・実施、交換留学プログラムの開発等、留学生誘致をはじめとする大学の国際化を促進する取組に対する支援。(※)認定10大学:京都外国語大学、京都学園大学、京都産業大学、京都女子大学、京都精華大学、京都府立大学、同志社大学、同志社女子大学、花園大学、龍谷大学(五十音順)</p> <p>【留学生スタディ京都ネットワーク】 京都における留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都で推進するため、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済界、京都市、京都府などにより平成27年5月に設立(100団体が加盟) 京都留学総合ポータルサイトについては、英語、中国語(簡体字、繁体字)、ハングル、タイ語、ベトナム語、日本語の7言語で京都の留学情報を発信しているほか、京都で学ぶ現役留学生(7箇国9名)のPRチームによる、FACEBOOK等のソーシャルメディアを通じた情報発信も行うなど、積極的なプロモーションに取り組んでいる。また、29年度は、香港(11月)及びタイ(2月)において京都留学フェアを開催するとともに、北京(10月)での学校説明会、香港(8月)及びベトナム(9~10月)での日本留学フェア(JASSO主催)への出展等を実施</p>	<p>【留学生の誘致促進】 ○ <u>留学生誘致の更なる促進</u> ・ 留学生誘致には、東京と比較して住居費が低いメリットを活かすことや、グローバル化に対応した大学職員の研修や意識改革が必要。 ○ <u>プロモーションにおける口コミの活用</u> ○ <u>留学生スタディ京都ネットワークの機能強化</u> ・ 留学生スタディ京都ネットワーク実施の「留学生満足度調査」の結果、日本留学の際の参考情報として、特に「友達、知り合い、留学経験者からの口コミ」が重視されている。 ・ コンソ加盟大学と海外大学との交流・協定締結先の確保についても支援して欲しい。 ・ 留学生スタディ京都ネットワークにおいて、留学生誘致をはじめ、住宅情報サイトの開設・運営や有給インターンシップに取り組んでおられるが、加盟団体間の連携をもう一步進めて欲しい。</p>	<p>【留学生の誘致促進】 レジリエンス、 SDGs</p> <p>① <u>戦略的な留学生誘致の展開</u> ・ <u>確度の高い誘致先の選定及びプロモーション内容の充実に向けたさらなるデータ分析</u> ・ <u>国内の他地域の日本語学校(東京・大阪・名古屋など)へのプロモーションの実施</u> ・ <u>海外における日本語学習者(海外の大学の日本語学科など)へのプロモーションの実施</u> ・ <u>留学生OB・OGを活用したプロモーションの実施</u> ・ <u>コンソ加盟大学と海外大学との交流・協定締結促進</u></p> <p>② <u>留学生スタディ京都ネットワークの機能の充実</u> <u>誘致及び受入体制の整備や留学生の知識・経験を地域の国際化・活性化に活かすための仕組みづくりに向け、課題等を検証したうえで、機能の充実を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 ・ 「大学のまち京都」の魅力を体感できる短期留学受入事業 ・ 京都留学総合ポータルサイトの運営 ・ 京都留学フェア ・ 国外留学フェアへの京都ブース出展 ・ 留学生PRチーム

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
(2) 留学生の受入環境整備	<p>【来日直後の留学生を支援する「ウェルカム・パッケージ」】 大学等からの要請に応じ、京都市職員等が行政関連のガイダンスを実施するとともに、日本人学生による留学生サポートや留学生向け説明動画を作成 28年度ガイダンス実施実績: 延べ 13 校 794 名 29年度ガイダンス実施実績: 延べ 14 校 1,117 名</p> <p>【留学生のための住宅情報サイトの創設と運営】 留学生向けの住宅情報検索サイトを創設し、多言語(英語、中国語【繁体字・簡体字】、ハングル、日本語)で京都の賃貸住宅情報を提供 ページビュー数: 31,581 件(29年度実績) 掲載物件数: 約 15,000 件</p>	<p>【留学生受入環境整備】 ○ 中小規模の大学等における留学生関連事務等に対するサポート ○ 留学生住居の確保 ○ 地域や日本人学生との交流機会の充実 ○ 日本語能力向上のための取組の実施 ○ 英語による学習環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模の大学なら、留学生に対するマネジメントやサポートができるかもしれない。中小規模の大学が自前ではできなくても、留学生が訪れた時、コンソーシアムとして、学びや生活支援のベースラインがしっかりしており、サポートできるシステムをつくるのが大切。 各大学に共通で発生する書類の手間の簡素化など考えられないか。 留学生を呼びたいが、宿舎をどうするかや日本語教育などの問題があり、出来ていない。そういったところをサポートしていただき、専門的なところは大学がするといったことができればありがたい。 留学生と日本人学生の混住型にするかどうかなど、判断が各大学のポリシーによる部分もあるが、留学生の住まいについては各大学で共通の課題だと思う。 日本人と同居できるシステムの構築は有効である。 留学生向けの住宅情報サイトが実際、便利に使えるようになればよい。また、開設して1年で、サイトを知ってもらうための努力が重要なのではないか。こうしたサイトが機能するまで、現在は過渡期的なかもしれない。 留学生満足度調査において、日本人学生との交流、地域との交流についての評価が低い。 日本語教育を実施できない大学のため、留学当初に学生向けの日本語講座を行ってほしい。 留学生のサポートや日本語教育を行うシステムをコンソで作って欲しい。特に、留学生の就職を促すには、日本語教育は重要である。 主に交換留学生の受入に関係することで、一大学で提供できる英語開講科目の数は限られるので、海外の学生にとって魅力的なラインナップにならないという困難がある。 留学生向けに英語開講科目の単位互換制度ができて、京都全体をキャンパスとするような取組を世界に発信できると面白い。 	<p>【留学生受入環境整備】 ① 留学生に係る大学事務の効率化に向けた支援 ② 生活上の課題解決支援(留学生・外国人研究者及び家族含む): 支援情報の適切な提供 ③ 混住型宿舎など留学生寮の設置支援、住宅情報サイトの活用促進 ④ 留学生と地域・日本人学生の交流事業の充実(留学生及び日本人学生の交流機会の更なる創出など) ⑤ 就職を見据えた日本語教育の充実 ⑥ 英語による学習環境の整備・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 来日直後の留学生を支援する「ウェルカム・パッケージ」 留学生優待プログラム 外国人留学生交流等促進事業 外国人留学生国民健康保険料補助事業 京都市空き家活用・流通支援等補助金 京都市、京都橘大学及び醍醐中山団地町内連合会の地域連携事業 職員向け英語スキルアップ研修 京トウモロアカデミー(～H32.3) <p>※文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生のための住宅情報サイトの創設と運営 京都市生活ガイドのホームページでの公開
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	<p>【留学生の就職支援・マッチング事業】 京都で学ぶ留学生と京都企業を対象とした求人・求職の情報提供を行うマッチングサイト「ハタ洛」を開設し、同サイトを通じて就職・採用の機会を創出するとともに、留学生と企業の抱える課題を解決するためのセミナーや交流会を開催 (29年度実績) ・留学生向けセミナー5回(11, 12, 1, 2, 3月) ・企業向けセミナー 3回(11, 1, 3月) ・交流会 3回(1月, 2月, 3月) ・サイト登録数(企業 72社, 留学生数 168人)</p> <p>【留学生向け有給インターンシップ事業】 時給 900 円及び交通費が支給され、留学生が経済的な負担を心配せずに企業でのリアルな現場で就業体験ができるプログラム 28年度: 15社, 7の国と地域から 22名が参加 29年度: 26社, 10の国と地域から 37名が参加</p>	<p>【留学生の就職支援・マッチング事業】 ○ 留学生と企業との交流機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生が京都の企業に就職してもらうことは非常に大事なことであり、在学中から地域の企業と大学がどこまで関係性をつくっていけるか、また、就職するに当たって、どこまできちんとしたブリッジを戦略として機能させるかということが必要になってくる。 「留学生を採用してもよい」という企業の全体数は多いが、本当に採用している企業が多くないというギャップをどう埋めていくか、経済界・企業側とも協力して考えていかなければならない。 	<p>【留学生の就職支援】 レジリエンス, SDGs ① 留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の機能の充実 ② 留学生の採用に積極的な中小企業の支援 ③ 留学生と企業がつながる機会の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の就職支援・マッチング事業 留学生向け有給インターンシップ事業 京トウモロアカデミー(～H32.3) <p>※文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受入環境充実事業」</p>

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート, ヒアリング, 推進会議・部会, サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
(4) 海外留学の促進	<p>【英語で京都をプレゼンテーション】 主に海外留学を検討する学生を対象に、英語で京都の深い魅力を伝えられる能力を養成するため、「英語で京都をプレゼンテーション」講座を実施 (29年度実績) 上級クラス:全6回(春期) 参加者数:21名 中級クラス:全4回(秋期) 参加者数:14名 ※平成30年度から、本講座上級クラスを修了した学生を「京都PR学生大使」に任命</p> <p>【京(みやこ)グローバル大学促進事業】※再掲 認定10大学(※)において、協定校との連携強化、新規協定校の開拓、留学生受入プログラムの開発・実施、交換留学プログラムの開発等、留学生誘致をはじめとする大学の国際化を促進する取組に対する支援。 (※)認定10大学:京都外国語大学, 京都学園大学, 京都産業大学, 京都女子大学, 京都精華大学, 京都府立大学, 同志社大学, 同志社女子大学, 花園大学, 龍谷大学(五十音順)</p> <p>【単位互換海外留学派遣プログラム】 ビクトリア州(オーストラリア・メルボルン)の大学との単位互換を利用した短期語学研修を実施。 平成29年度実績:海外派遣プログラム参加者21名</p>	<p>【海外留学の促進】 ○ 海外留学からの帰国学生に対する国内における取組の充実</p>	<p>【海外留学の促進】 ① 京都PR学生大使制度などの継続及び既存事業との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 ・単位互換海外留学派遣プログラム ・英語で京都をプレゼンテーション
(5) 海外との学術教育研究の交流促進	<p>【海外との学術教育研究の交流促進】 京都市と海外の都市において、民間レベルでの特定分野の交流促進を目的とする「パートナーシティ」連携を進める中で、海外の大学・学生や大学間連携組織と市内大学・学生や大学コンソーシアム京都との連携・交流を促進</p>		<p>【海外との学術教育研究の交流促進】 ① 加盟大学と海外大学との交流・協定締結促進※再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全米日本研究セミナー(H28)

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
(1) 学生の主体的活動の促進	<p>【京都学生祭典】 第15回目の節目の年を迎え、さまざまな大学から約1,500人の学生が参画し、本祭には10万人以上が来場するなど、「学生のまち京都」を象徴する取組として定着</p> <p>【京都学生広報部】 平成27年度に京都で学ぶ大学生の「京都学生広報部」を創設。大学生の視点で企画・取材・撮影・記事作成した「中高生に伝えたい京都のリアルな情報」をウェブサイトやSNS等で発信(入部学生数:11大学から50名 ※29年11月時点)</p> <p>【輝く学生応援プロジェクト】 学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施 平成26年度から、学生が個人単位でも社会貢献活動に取り組むことができるよう「学生ボランティアチャレンジ」を開始(活動開始者数 H26:25名, H27:56名, H28:94名)</p>	<p>【京都学生祭典, 京都国際学生映画祭】 ○ <u>学生の更なる成長の場につなげる取組の実施</u> ・ 学生の主体的な活動となることについては、大変有効であるが、ややもすると、イベント運営のための要員となりかねない。 ・ 学生にとってより成長できる事業として発展して欲しい。</p> <p>【輝く学生応援プロジェクト】 ○ <u>学生と地域のマッチング機能の更なる充実</u> ・ 学生団体の登録数が減少傾向であるため、学生への周知が課題</p>	<p>【京都学生祭典】 ① 学生の成長・育成を目的とした、実行委員における低年次生から社会人と接する機会の拡大 ② 20周年を迎える学生祭典の充実(留学生との協働、企業・地域との連携、中高生をはじめとする国内外への魅力発信)に向けた更なる支援</p> <p>【京都国際学生映画祭】 ① 研修制度の立ち上げ・強化</p> <p>【京都学生広報部】 ① ウェブサイト上での情報発信に加え、ターゲットである中高生と直接交流するイベントや企業等とタイアップした企画の実施</p> <p>【輝く学生応援プロジェクト】 ① 学生の意見を取り入れた学生 Place+の更なる活用策の検討 ② むすぶネット(学生・地域連携ネットワーク)におけるマッチング件数増加に向けた制度周知の充実</p> <p>【その他】 ① 各種地域連携事業で培われてきたノウハウや事例を共有、発信する地域連携ウェブサイトの新規開設 ② 「だいすきっ! 京都。寄付金」応援メニューへの「大学のまち、学生のまち」の追加(学生の主体的活動への支援を用途) ③ 学生向けアプリの開設による各種事業の周知 ④ 地域を良くしたいという想いを持った若者の発掘と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都学生祭典 ・ 京都国際学生映画祭 ・ 京都学生広報部 ・ 輝く学生応援プロジェクト ・ 大学生・ごみ減量サポーター事業
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	<p>【大学地域連携創造・支援事業】 平成16年度から、大学・学生と地域との連携を促進し、まちづくりや地域の活性化に資する取組を支援 平成29年度から、大学・学生と地域との協働・連携による文化的な取組をより一層促進するため、「文化枠」を新設(平成32年度まで実施予定)</p> <p>【学生消防サポーター】 市内の大学・短大生等を対象に防火・防災研修を実施。平成28年度から、一定の知識・技能を有すると認めた学生にライセンスを発行する制度を導入(H28ライセンス取得者:99名)</p> <p>【京都から発信する政策研究交流大会】 都市政策を学ぶ大学生・大学院生を中心に、日頃の研究や学習の成果の発表を通じての交流や地域社会に対して政策提案、情報発信の場として実施(H28:口頭発表:65組, パネル発表:18組)</p>	<p>○ <u>大学・学生と地域のマッチング機能の強化</u> 【学まちコラボ事業など】 ・ 大学に地域とのコーディネーターを担える人材は少なく、活動の継続性・持続性が課題になっている。 ・ <u>地域の課題やニーズを集めて学生団体等とのマッチングを行う事業は、一大学で行うよりもコンソーシアムで行う方が優位性があり、是非そのような機能強化をお願いしたい。</u> ・ 各教員・学生が行っている活動の整理と共有が必要。また、地域がどう受け止めているかも知る必要がある。 ・ 留学生が地域に関わるなど、地域連携と国際化は一体的に取り組んでいきたい。 ・ 地域社会のニーズを把握するため、企業や地域との議論の場をコンソが中心となって構築して欲しい。</p>	<p>【学生が地域のまちづくりと関わる機会の拡充】 ① <u>学まちコラボ事業における地域との連携強化</u> ② <u>各種地域連携事業で培われてきたノウハウや事例を共有、発信する地域連携ウェブサイトの新規開設※再掲</u> ③ むすぶネット(学生・地域連携ネットワーク)におけるマッチング件数増加に向けた制度周知の充実※再掲 ④ 学生の意見を取り入れた学生 Place+の更なる活用策の検討)※再掲 ⑤ 地域を良くしたいという想いを持った若者の発掘と支援※再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携ウェブサイトの運営 ・ 大学地域連携創造・支援事業(学まちコラボ事業) ・ 自治会等への加入促進(きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰) ・ 自治会等への加入促進(大学・専修学校新入生向けチラシの配布) ・ 学生防犯ボランティアへの支援 ・ 青少年モニター制度 ・ 児童館における学習支援事業 ・ 京都学生消防サポーター ・ 消防団入団促進事業 ・ 京都から発信する政策研究交流大会 ・ 京都学生祭典実行委員会による夜警活動

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(3) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実</p>	<p>【インターンシップ】 企業・団体数、実習生数ともに減少傾向 <29年度実績> (企業・団体数) ・ビジネス・パブリックコース 登録数:198 受入数:155 ・プログレスコース 登録数:15 受入数:10 (実習生数) ・ビジネス・パブリックコース 出願者数:461 受入数:341 ・プログレスコース 出願者数:44 受入数:37</p> <p>【京都中小企業担い手確保・定着支援事業】 「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、学生等と中小企業との交流会の開催、学生等が京都企業を取材し、その魅力を発信するインターンシップ事業を実施 ・ 京都の中小企業の魅力再発見プロジェクト 京都市わかもの就職支援センターがインターンシップ生を受入れ、市内の中小企業を取材し、成果報告会やWEBによる情報発信を実施。 <29年度実績> 取材先企業数:12社 参加学生数:14名 ・ しごとトーク KYOTO 学生等と京都で働く社会人が、しごとやはたらくことについて語り合う。 ・ イベント京のまち企業訪問ツアー編 京都の中小企業を訪問して、そこで働く人と語り合う。 <29年度実績> 参加者数:118名</p> <p>【京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創造事業】 大学と連携し、「これからの1000年を紡ぐ企業認定」認定企業の代表者による講義や、多様な生き方・働き方を考えるイベントを実施したほか、認定企業のスタッフが自身の生き方・働き方を紹介する連載記事を京都市ソーシャルイノベーション研究所のホームページに掲載するなど、ビジネスの手法を用いて社会的課題を解決するソーシャルビジネスを企業・起業家・従業員と多面的に紹介し、学生が多様な選択肢を描ききっかけを提供 <29年度実績> 連携大学 7大学, 参加者延べ 1,023人</p>	<p>○ 教育プログラムとしてのインターンシップの充実 ○ 多種多様な企業や企業人を知り、触れ合う機会の創出</p> <p>【インターンシップ】 ・ 大学の間から企業を肌で感じることができる環境を整えていることは非常によいこと。 ・ ニーズとシーズをマッチングし、互いに信頼関係を築くためには、長期インターンシップが必要 ・ 受講生や参加企業の増加を目的とするのではなく、成功例を共有し広げていくべき。 ・ 学生を受け入れたことで企業がどう変わるかという観点も重要 ・ 学生の専門性を生かしたインターンシップが確立できていない。</p> <p>【多様な生き方・学び方を考える機会の創出】 ・ 起業志向を持った学生は増えており、企業・団体等とタイアップする必要がある。 ・ 学生 Place+ではコーディネーターには相談できるが、企業など多様な人材が学生と交流する機能はない。</p> <p>【インターンシップ(コンソ)】 就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム。 ○ ビジネス・パブリックコース 原則 8月中旬～9月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)において 2週間～1ヶ月程度の実習を行うコース ○ プログレスコース 6月中旬から 11月下旬にかけて、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)が提示するプロジェクトを実行するコース</p>	<p>【インターンシップ】<u>レジリエンス</u>、<u>SDGs</u> ① 経済団体との連携等による京都型長期インターンシップの充実、低学年からの参加の促進 ② 優良なインターンシッププログラム事例の情報収集・発信、表彰制度の拡充 ③ インターンシップ修了生とのネットワーク構築による現役学生への支援体制、新規受入れ先の確保の促進 ④ 加盟校におけるインターンシップの今後の方向性調査と連携のあり方の検討</p> <p>【多様な生き方・学びを考える機会の創出】<u>レジリエンス</u>、<u>SDGs</u> ① オール京都で中小企業の人材確保に取り組み一環として、京都市わかもの就職支援センター等と連携し、学生等と京都で働く社会人との交流イベント等の開催、広報の充実 ② 学生の意見を取り入れた学生 Place+の更なる活用策の検討(学生と企業が自由に交流できる場など)※再掲</p> <p>【起業支援】 ① 機関紙等における学生起業例の特集・発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ事業 ・ 京都企業と連携した次代の京都を担う人財(担い手)の育成事業 ・ 「京都市わかもの就職支援センター」によるインターンシップ事業の推進 ・ RELEASE; 社会的課題に関心を持ち「何とかしたい」と考えている大学生や若者、新たな手法を模索する行政、社会貢献という視点で新たな事業展開を図る企業の3者が集い、ビジネスアイデアを練り上げる。 ・ 京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創造事業 ・ ビジネス総合力養成講座『京都D-school』 京都地域における起業や新事業の創出を促進させ、地域産業や経済の活性化を図ることを目的に、主に京都市内の中小企業者を対象とした講座を開催 ・ スチューデントシティ・ファイナンスパーク 施設内に再現した実際の「街」の中で、子どもたちが、接客や販売等、一人の大人として働くことや生活設計の構築を通して、社会と自分の関わり、経済の仕組み、働くことの意義を学ぶ活動 ・ 生き方探求・チャレンジ体験事業 中学生が自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を身につけ、集団や社会の一員としての自己の在り方と生き方を考えるきっかけを生み出すため、勤労体験・職場体験、ボランティア体験などの社会体験活動を実施

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート, ヒアリング, 推進会議・部会, サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(4) 学生が京都の文化や魅力とふれあう環境づくり</p>	<p>【キャンパス文化パートナーズ制度】 コンソ加盟校の学生が市内文化施設に優待料金で入場できる制度 (平成 29.8.1 時点の登録学生数:19,016 人)</p> <p>【和の文化体験の日】 大学生をはじめとする若者が和の文化に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供するため、公演やワークショップを実施(H29 テーマ: 歌舞伎)</p> <p>【学生アートオークション】 京都の芸術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的とした京都学生アートオークション実行委員会主催のオークション</p> <p>【芸術文化特別奨励制度】 新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化の振興を図ることを目的に、特に有望と認められる若い芸術家を奨励する制度</p>	<p>【学生が京都の文化や魅力に触れる機会の充実】 ○ 京都独自の文化を活用した学習環境の整備と周知の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都のまちは昔から学生にとっても寛容なまちで、昔は下宿生が多かった。地域の人と密着して色んなことを一緒にやっていて、そういう雰囲気があった。そういったところを学んでもらうと、京都で学ぶ良さが分かる。 ・ <u>キャンパス文化パートナーズ制度は、キャンパスライフの充実につながるものであり、京都の歴史・文化施設などを体験したくて来た学生には良い制度である。</u> ・ 世界遺産 PBL などぜひ推進して欲しいテーマであり、質も良い。 	<p>【学生が京都の文化や魅力に触れる機会の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>学生向けアプリ等の開発・活用による学生が京都の文化にふれやすくなる環境の醸成</u> ② 世界遺産 PBL に続く、動物園、鉄道博物館等、学生の関心が高い京都を代表する魅力的なフィールドにおける単位互換科目の開設 ※再掲 ③ 大学と連携した、文学をはじめ文化を対象とする新たな顕彰制度の創設検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンパス文化パートナーズ制度 ・ 京都・和の文化体験の日 ・ きょうと地域力アップ貢献事業等表彰 ・ 京都学生アートオークション ・ 若手の芸術家等を対象とした顕彰制度の実施(芸術文化特別奨励制度, 芸術新人賞, 文化芸術産業観光表彰(みらい賞))

柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(1) ニーズに対応した京都企業と学生の就業マッチングの促進</p>	<p>【京都中小企業担い手確保・定着支援事業】 「京都市わかもの就職支援センター」を拠点に、求職者向けの個別カウンセリングやセミナーの実施、WEBサイト「京のまち企業訪問」の運営等によって学生と中小企業とのマッチング支援を行っているほか、就職後のフォローアップ等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリング 採用選考の対策など「就活」に関するあらゆる相談に対応セミナー(大学出張・面接対策等)を開催 <29年度実績> カウンセリング件数:1,398名 セミナー参加者数:1,610名 ・ WEBサイト「京のまち企業訪問」 京都企業に関する求人情報や京都で働く社会人のインタビュー記事等の魅力発信記事を掲載 <29年度実績> 掲載企業数:3,890社 市内中小企業への就職者数(正規雇用):169名 <p>【観光関連産業安定雇用促進事業(首都圏等をはじめとする求職者に対する中小企業の魅力発信事業)】 首都圏在住の京都出身の若者などが、京都の観光関連産業の中小企業取材し、彼らの視点でその魅力を編集し、東京での取材成果報告会を実施するほか合同企業説明会などで広く発信 <29年度実績> 取材先企業数:延べ15社、参加者数:延べ44人</p>	<p>【企業を知る機会の創出】 ○ <u>地元中小企業を知る機会の創出</u> ・ <u>学生の京都企業とのマッチングは重要。学生の目を京都企業に向ける取組を検討する必要がある。</u> ・ <u>大手企業ばかりに目を向ける学生が多い中、今後も高度な技術力を持っていたり、世界に誇れる製品を製造している中小企業等を学生に知ってもらえる機会を増やして欲しい。</u></p>	<p>【企業を知る機会の創出】 ① 「京のまち企業訪問」と連携した中小企業の情報発信の強化 ② 「京都市中小企業未来力会議」と連携した、中小企業との出会いの場の創出や学生の視点を取り入れたビジネスアイデアの推進等 ③ 経済団体との連携による京都型長期インターンシップの充実、低学年での参加の促進※再掲 ④ オール京都で中小企業の人材確保に取り組む一環として、京都市わかもの就職支援センター等と連携し、学生等と京都で働く社会人との交流イベント等の開催、広報の充実※再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都企業魅力発信 「京のまち企業訪問」運営・首都圏をはじめとする求職者に対する中小企業の魅力発信事業 ・ 「京都市わかもの就職支援センター」を拠点とした個別カウンセリングや就職支援セミナー等の実施
<p>(2) 「働き方改革」の推進と学生を取り巻く就労環境の向上</p>	<p>【京の企業働き方改革総実践プロジェクト】 ・ 大学生をはじめ、若年求職者に企業情報を発信しているウェブサイト「京のまち企業訪問」に、若者が企業を選択する際の重要な判断材料である働き方改革の取組状況を紹介する機能を付加することにより、働き方改革に取り組む企業と大学生等とのマッチング機能を強化 ・ 経営者や従業員へのヒアリングなどを経て、社内の意識改革を進めるとともに、従業員の育成を図るなど、各企業の特性に応じた働き方改革の実践を専門家等が支援する。また、導入過程も含めた取組内容を SNS や冊子等で広く紹介することにより、他の中小企業の働き方改革の取組を後押し</p> <p>【学生を取り巻く就労環境の向上】 ・ 「京都市わかもの就職支援センター」にブラックバイト相談窓口を設置し、働くルールを学ぶセミナーや相談会を大学等で実施しているほか、実態を踏まえた学生への啓発などの取組を実施</p>	<p>【働き方改革の実践】 ○ <u>学生視点を生かした働き方改革の実践</u> ・ <u>社会人の学び直しの際、個々の大学ではできないプログラムをコンソーシアムで開設することが必要である。</u> ・ <u>働き方改革については、待遇改善だけでなく、就労のあり方や契約形態のあり方などもセットで議論されている。学生がどういう働き方を希望するか、企業に提案すると、日本社会の活性化にもつながるのではないか。</u> ・ <u>学生の感性はお金だけでなく、企業風土に向いている。これは良いことで、学生の中堅・中小企業へのアプローチは企業風土改革にもつながる。</u></p> <p>【学生を取り巻く就労環境の向上】※柱1(2)再掲 ・ SNS やネット上の情報を安易に受容するのではなく、自らが正しい情報をキャッチし判断する必要がある。そのためにも働く上で基礎的な「労働法」や「求人票・青少年雇用情報シート等」の見方について、学生だけに限らず大学職員も正しく理解する必要がある。 ・ 学生は立場も弱く、相談できない可能性もあるので、京都市には雇用主への働きかけをもってブラックバイトの根絶に取り組んでいただきたい。</p>	<p>【働き方改革の実践】SDGs ① 「働き方改革」を推進する企業に対する学生へのPR機会 及び学生との意見交換の場の創出検討</p> <p>【学生を取り巻く就労環境の向上】SDGs ① 京都市わかもの就職支援センターと連携したブラックバイト相談窓口の周知※再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京の企業働き方改革総実践プロジェクト ・ 「京都市わかもの就職支援センター」によるブラックバイト根絶に向けた「働くルールを知るセミナー」の開催※再掲

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進</p>	<p>【京カレッジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・短期大学による大学講義、市民教養講座(市民教養講座、京都力養成コース、教養力養成コース)を展開。 H28 から、複数大学による「大学リレー講座」を新規開講。・コンソが提供する「京都学講座」の人気の年々高まっているため、H29 年度から午前・午後の2コースに充実 H27:定員 250 名, 出願者 331 名 H28:定員 250 名, 出願者 464 名 H29:定員 500 名, 出願者 794 名 	<p>【リカレント教育－生涯学習の推進】</p> <p>○ 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学生」を、どうしても従来からの「若者」という定義で捉えがちである。中教審でも、生涯学習や社会人の学び直しが言われるようになってきていることを踏まえると、大学政策を若者だけで考えていいのか。 100年生きる時代の学び、その中で大学の役割を再定義し、大学のまち京都として何ができるか。大学が積極的に役割を果たすことで、社会全体にとっても非常にプラスになるような幅広の生涯学習を模索する必要がある。 働き方改革や生涯学習の文脈、高度専門職業人の育成や職業的なスキルの学び直しという観点が必要 社会人教育においても、現場で役立つ資格的人材の育成が課題となっている。例えば、サイバーセキュリティはテキサス州でそうした人材育成ができる州として売り出しており、そういう発想も必要では。 人生100年時代において、京都が、誰もが学び続けることができるまちになって欲しい。 	<p>【リカレント教育－生涯学習の推進】<u>レジリエンス</u>、<u>SDGs</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 職業人・社会人、企業、地域等が必要としている教育内容の把握、研究 ② リカレント教育の実施など産業界の担い手育成を推進する大学への支援事業の新設 ③ 京カレッジにおける教養講座の開設 <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁地域文化創生本部と大学コンソーシアム京都間での包括協定に基づく教養講座 ・東京オリパラ、WMG 開催を契機にした、生涯スポーツ向け教養講座 ④ 単位互換における教職日曜講座の開設※再掲 ⑤ 大学が実施する市民向け公開講座や市民等が利用可能な大学施設に関する情報収集と効果的な発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・京カレッジ

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化</p>	<p>【成長産業創造センターの取組(29年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端の大学の研究成果を事業化につなげる研究プロジェクトの推進 定期フォーラムの開催 4周年記念フォーラムの開催(11月) <p>【京都産学公連携機構での取組(29年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都「大学の知恵」活用認定制度の創設・運用 「産学公連携・京都モデル」に向けた調査・発信 京都産学連携支援セミナーの開催(8月):125名参加 <p>【地域産学官共同研究拠点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学研究者や企業に高度研究機器の貸付を行う拠点の運営 29実績:貸付3,851件(11月末現在) 高度研究機器を活用した、大学・企業等との共同プロジェクトの推進 技術者育成講座(人材育成セミナー等)の実施 29実績:延べ286名参加(11月末現在) 最先端の研究開発をテーマとしたシンポジウムや公開セミナーの実施 <p>【ライフイノベーション創出支援センターでの取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都大学構内に設置した次世代医療分野や健康・福祉・介護分野における研究開発の支援を行う拠点においてセンター長及びコーディネーターを中心に、大学研究者と企業とのマッチング等の支援を実施。 市内の大学研究者及び企業の研究開発を支援する京都発革新的医療技術研究開発助成事業を実施 29実績:20件採択 最先端の研究開発をテーマとしたシンポジウムやセミナーの開催 <p>【産業技術研究所と大学との共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な大学と連携し、中小企業等の新技術・製品開発や新分野への進出につながる研究開発を実施 <p>【京都市産業技術研究所と大学との包括連携協定の締結】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都府立大学と包括連携協定を締結し、共同研究、セミナーの開催、学生の受入等の取組を実施 	<p>【産学公連携による京都経済の活性化】</p> <p>○ 産業活性化に向けた大学との連携・協働の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間企業との連携実績がなく、「京都産学公連携機構」以外の事業や活動についてはよく知らない。 連携にあたっては、お互いのメリットを理解していることが重要であるため、産業界側の需要のみならず、大学側の需要やメリットを踏まえたコーディネートが必要。 大学のまち京都として大学のシーズと地元企業のニーズをうまくコーディネートし、引き続き、連携事業や協働事業の促進を更に期待したい。 	<p>【産学公の連携による京都経済の活性化】<u>レジリエンス</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 京都経済センター再整備による産学公連携強化 京都「大学の知恵」活用認定制度の更なる推進 	<ul style="list-style-type: none"> 成長産業創造センターでの取組の推進 地域産学官共同研究拠点整備事業 京都産学公連携機構 ライフイノベーション創出支援センター 京都・高度人材交流拠点構想(仮称)の策定 大規模国際コンベンション開催支援助成事業 コンベンション推進事業 大規模国際会議誘致助成事業

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート, ヒアリング, 推進会議・部会, サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(3) 大学を活かした芸術文化環境の向上</p>	<p>【大学を活かした芸術文化環境の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都版トキワ荘プロジェクト マンガ家志望者がプロとなるきっかけを提供するコミュニティづくりの取組 東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS) 若手芸術家を対象に、既存の町家や倉庫、公的住宅、公共空間等を利用して、若手芸術家が京都のまちなかに居住し、活動しつづけることができる環境を整え、新しい創作の活力をまちの活力につなげる。 駅ナカアートプロジェクト 京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示 Art-e Kyoto 芸術系5大学(京都嵯峨芸術大学, 京都市立芸術大学, 京都精華大学, 京都造形芸術大学, 成安造形大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切にす風土づくりを目指して連携 	<p>【大学を活かした芸術文化環境の向上】</p> <p>○ 市立芸大移転を契機とした文化芸術環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> アートを産学公連携やまちづくりに結び付けていく必要がある。 芸大の移転は京都にとって大きな変革要因。しっかりとリンクさせる必要がある。 京都で充実した学生時代を送っているという感覚を支援していく必要がある。芸大の移転も含めて若者のキャンパスライフを充実させる拠点をイメージしながらのまちづくりが必要 	<p>【大学を活かした芸術文化環境の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> 京都市立芸大新キャンパスにおける市民や国内外の学生、芸術家等の交流・創造の場・芸術の発信拠点の整備 文化庁との連携強化による学生・留学生、市民等の文化力の向上 京都駅東部エリアにおける「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生 京カレッジにおける教養講座の開設※再掲 <ul style="list-style-type: none"> 文化庁地域文化創生本部と大学コンソーシアム京都間での包括協定に基づく教養講座 東京オリパラ, WMG 開催を契機にした、生涯スポーツ向け教養講座 大学が実施する市民向け公開講座や市民等が利用・見学可能な大学施設に関する情報収集と効果的な発信※再掲 世界遺産 PBL に続く、動物園、鉄道博物館等、学生の関心が高い京都を代表する魅力的なフィールドにおける単位互換科目の開設※再掲 	<ul style="list-style-type: none"> 東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS) 京都版トキワ荘プロジェクト 駅ナカアートプロジェクト Art-e Kyoto
<p>(4) 大学と地域との連携の推進</p>	<p>【「学まち連携大学」促進事業】</p> <p>大学を挙げた地域連携の取組をこれまで以上に促進するため、地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発及び実施に取り組む大学を支援</p> <p>採択大学(6校): 大谷大学, 京都教育大学, 京都女子大学, 京都橘大学, 同志社女子大学, 龍谷大学</p> <p>【大学・地域連携サミット】</p> <p>大学・学生と地域の連携事例を広く発信するとともに、地域連携活動に携わる大学・学生や地域団体等が交流する機会として開催</p> <p>H28: 11月6日(日), 参加者数約130名 H29: 11月12日(日), 参加者数約150名</p>	<p>【大学・学生と地域との連携の推進】</p> <p>○ 大学・学生と地域のマッチング機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学に地域とのコーディネーターを担える人材は少なく、活動の継続性・持続性が課題になっている。 地域の課題やニーズを集めて学生団体等とのマッチングを行う事業は、一大学で行うよりもコンソーシアムで行う方が優位性があり、是非そのような機能強化をお願いしたい。 地域から大学へ課題が持ち込まれることはあまりなく、教員が自分でフィールドを開拓していることがほとんどである。 各教員・学生が行っている活動の整理と共有が必要。また、地域がどう受け止めているのかも知る必要がある。 地域社会のニーズを把握するため、企業や地域との議論の場をコンソが中心となって構築して欲しい。 <p>○ 「学まち連携大学」促進事業や「京(みやこ)グローバル大学」促進事業などの中小規模大学の挑戦を後押しする事業は継続して欲しい。</p>	<p>【大学・学生と地域との連携の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学まち連携大学」促進事業の検証・改善 各種地域連携事業で培われてきたノウハウや事例を共有、発信する地域連携ウェブサイトの新規開設※再掲 大学生を活用した市営住宅における住民自治の活性化 京都のまちづくりにおいて、「大学のまち京都・学生のまち京都」として、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備を支援(都市計画マスタープラン, 持続可能な都市構築プラン(仮称))※再掲 	<ul style="list-style-type: none"> 「学まち連携大学」促進事業 大学・地域連携サミット 地域連携ウェブサイトの運営

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート, ヒアリング, 推進会議・部会, サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(5) 小中高大連携の推進</p>	<p>【高大連携事業】 高校と大学がともに学び合い、育ち合う関係の構築に向け、共同授業や出張授業の充実など、大学コンソーシアム京都における京都高大連携研究協議会を中心とした高校と大学の連携を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 高大連携フューチャーセッション 高校生に大学や高校で学ぶことの大切さを気付かせることを目的とした取組。 高大連携教育フォーラム 高校・大学間の連携・接続教育問題における「国内動向の情報共有と京都における取り組みの情報発信」を目的としてフォーラムを実施する。 <p>【「学生ボランティア」学校サポート事業】 市立幼稚園・学校において、学生ボランティアが、学級活動や部活動の補助など、児童・生徒に関わる学校活動の支援を実施(H28:113 大学・短期大学・専門学校と協定締結。213校, 24869回活動)</p> <p>【京都教育懇話会】 次世代の教育についてのあり方, 人材育成の方向性を模索し, 先進的な取組を全国へ発信</p> <p>【京都こどもモノづくり事業】 「ものづくり都市・京都」の特性をいかし, 産学公連携・市民ぐるみにより, 小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出する取組を実施</p>	<p>【小中高大連携の推進】 ○ <u>教育の質向上に向けた高大の連携強化, キャリア教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の接続を行うためには, 大学, 高校双方の問題点, 改善点を明らかにする必要があり, コンソの高大連携事業はその良い機会となっている。 今後も, コンソでの高等学校基礎学力テストなどに関する最新動向を把握・発信する取組を継続して欲しい。 更なるキャリア意識の醸成ができるプログラムを充実に欲しい。 	<p>【小中高大連携の推進】SDGs</p> <ol style="list-style-type: none"> 「高大連携教育フォーラム」で得たネットワークを生かした, 教職員交流企画の実施検討 高校・大学生に社会人を加えた連携キャリア教育企画の充実 京都学生広報部への高校生の参画 「学生ボランティア」学校サポート事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携フューチャーセッション 高大連携教育フォーラム 「学生ボランティア」学校サポート事業 京都教育懇話会 京都こどもモノづくり事業
<p>(6) 特色化・機能強化に取り組む大学との連携強化</p>	<p>特色化・機能強化に取り組む大学との情報共有を図り, 京都市の施策や大学コンソーシアム京都の事業との連携を促進</p>	<p>【小規模大学をはじめとする特色化・機能強化に取り組む大学との連携強化】 ○ <u>各大学の特色化・機能強化支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自大学の取組が国の提示する内容に合致するかどうか確認するのに時間がかかる。 文科省とやり取りする際に東京まで行くのは非効率的。 大学コンソーシアム京都加盟校の要望を吸い上げる機会として, <u>ヒアリングの機会</u>は重要である。 大学コンソーシアム京都加盟校は, 東京にある大学に比べ, 地理的に不利な条件を常に抱えている。シンポジウム等の取り組みにおいて, 東京に足を運ばなくても情報を得る機会を提供して欲しい。 	<p>【小規模大学をはじめとする特色化・機能強化に取り組む大学との連携強化】レジリエンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 各大学の学びの特色(個性)化の支援※再掲 <ul style="list-style-type: none"> 大学間連携の研究(共同化が可能な科目の研究, ノウハウをシェアする仕組みの検討) 大学コンソーシアム京都の情報収集発信機能の強化※再掲 <ul style="list-style-type: none"> 財団や加盟校の運営に関わる国等の動向についての調査 高等教育の動向調査 加盟校のニーズ把握を目的としたヒアリングやアンケートの実施 高等教育の研究者や実務者等を定期的に招聘しての研究会の開催※再掲 	

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進施策	現状	課題 (加盟校アンケート、ヒアリング、推進会議・部会、サマーミーティングでの意見等)	今後実施予定の新規・充実事業(案) ※現時点で検討中のもの	既存の関連施策
<p>(1) 大学のまち京都・学生・保護者への魅力発信 中学生・高校生</p>	<p>【京都学生広報部】 平成 27 年度に京都で学ぶ大学生の「京都学生広報部」を創設。大学生の視点で企画・取材・撮影・記事作成した「中高生に伝えたい京都のリアルな情報」をウェブサイトやSNS等で発信(入部学生数:11 大学から 50 名 ※29 年 11 月時点)</p> <p>【京都 B&S プログラム】 民間旅行事業者と連携して大学生が修学旅行生などを案内する京都観光&キャンパスツアーを実施 H28 参加数:22 校 3,039 人(中学校 18 校, 高校 4 校)留学生向けのプログラムも 1 件実施</p>	<p>【学生の獲得に向けた魅力発信】 ○ 都市間競争を勝ち抜くための学生の獲得 ○ 中高生・保護者に京都の大学で学びたい、学ばせたいと思わせる広報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の大学では、自大学の志願者を増やすためのPRしかしなが、京都の魅力・京都の大学の魅力を発信することは重要であり、それは大学コンソーシアム京都でしかできないことである。 進路を決める前の中学生を対象としたPRが必要である。 将来、京都に来たいと思わせるツールになっているのか、またウェブサイトや SNS での発信に対する効果の検証が必要である。 日本全国の学生の誘致については、一番効果があるのは修学旅行である。もう少し、プロモーションがいるのかもしれない。修学旅行生に配布する資料をつくれなから。 プロモーションの効果が目に見えてくるのは、おそらく数年かかる。重要なことは、それを地道にきちんと積み上げていくことである。 京都はオシャレなまちというPRをしないと、神戸や大阪に学生を奪われかねない。 	<p>【修学旅行生・中高校生向け魅力発信】レジリエンス ① 京都で学ぶ意義・魅力の発信(PR冊子の作成と京都 B&S プログラム等と連携した修学旅行生・中高校生への配布等) ② 学生広報部におけるウェブサイト上での情報発信に加え、ターゲットである中高生と直接交流するイベントや企業等とタイアップした企画の実施(大学政策・コンソ)※再掲</p> <p>【保護者・大人向け魅力発信】 ① 大学が実施する市民向け公開講座や市民等が利用可能な大学施設に関する情報の収集と効果的な発信※再掲 ② 「大学のまち京都・学生のまち京都」シンボルマークの策定と普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携フューチャーセッション 京都学生広報部 京都 B&S プログラム きょうと修学旅行ナビの運営
<p>(2) 留学生誘致に向けた「大学のまち京都」の魅力発信 学生</p>	<p>【京(みやこ)グローバル大学】 認定 10 大学において、協定校との連携強化、新規協定校の開拓、留学生受入プログラムの開発・実施、交換留学プログラムの開発等、留学生誘致をはじめとする大学の国際化を促進する取組に対する支援</p> <p>【留学生スタディ京都ネットワーク】 京都における留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都で推進するため、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済界、京都市、京都府などにより平成 27 年 5 月に設立(現在 98 団体が加盟) 京都留学総合ポータルサイトについては、7 言語で京都の留学情報を発信しているほか、京都で学ぶ現役留学生のPRチームによる、FACEBOOK 等のソーシャルメディアを通じた情報発信も行うなど、積極的なプロモーションに取り組んでいる。また、平成 29 年度は、香港(11 月)及びタイ(2 月)において京都留学フェアを開催</p>	<p>【留学生の誘致促進】 ○ 留学生誘致の更なる促進 ○ プロモーションにおけるロコミの活用 ○ 留学生スタディ京都ネットワークの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生スタディ京都ネットワーク実施の「留学生満足度調査」の結果、日本留学の際の参考情報として、特に「友達、知り合い、留学経験者からのロコミ」が重視されている。 コンソ加盟大学と海外大学との交流・協定締結先の確保についても支援して欲しい。 留学生スタディ京都ネットワークにおいて、留学生誘致をはじめ、住宅情報サイトの開設・運営や有給インターンシップに取り組んでおられるが、加盟団体間の連携をもう一步進めて欲しい。 	<p>【留学生の誘致促進】レジリエンス, SDGs ① 戦略的な留学生誘致の展開 ※再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> 確度の高い誘致先の選定及びプロモーション内容の充実に向けたさらなるデータ分析 国内の他地域の日本語学校(東京・大阪・名古屋など)へのプロモーションの実施 海外における日本語学習者(海外の大学の日本語学科など)へのプロモーションの実施 留学生OB・OGを活用したプロモーションの実施 コンソ加盟大学と海外大学との交流・協定締結促進 <p>② 留学生スタディ京都ネットワークの機能の充実 ※再掲 誘致及び受入体制の整備や留学生の知識・経験を地域の国際化・活性化に活かすための仕組みづくりに向け、課題等を検証したうえで、機能の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 「大学のまち京都」の魅力を体感できる短期留学受入事業 京都留学総合ポータルサイトの運営 京都留学フェア 国外留学フェアへの京都ブース出展 留学生 PR チーム
<p>(3) 大学のまち京都 広報の充実</p>	<p>【大学・市民向け広報の充実】 大学からの依頼に応じて、市職員が大学へ出向いて市政に関連したテーマで講義するなど、各大学と連携して取り組みを実施</p>	<p>【大学・市民向け広報の充実】 ○ 市民に大学を知ってもらうための取組や機会の拡充</p>	<p>【大学・市民向け広報の充実】 ① 各種地域連携事業で培われてきたノウハウや事例を共有、発信する地域連携ウェブサイトの新規開設※再掲 ② 大学が実施する市民向け公開講座や市民等が利用可能な大学施設に関する情報の収集と効果的な発信※再掲 ③ 「大学のまち京都・学生のまち京都」シンボルマークの策定と普及※再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学での市政に関する出張講義 地域連携ウェブサイトの運営 メールリストによる周知